

小学生と保護者の排便に関する意識調査

特定非営利活動法人日本トイレ研究所

【本件に関するお問い合わせ】 特定非営利活動法人日本トイレ研究所

E-mail contact_us@toilet.or.jp

本資料を転載・引用される際は上記までご連絡の上、クレジット表記をお願いいたします。

調査概要

- 目 的 : 小学生と保護者の排便状態および意識の実態把握
- 対 象 : 小学生（1年生～6年生）の保護者
- 地 域 : 全国
- 期 間 : 2022年11月9日から11月10日
- 方 法 : インターネット調査
(調査画面の前に子どもが同席のもと、保護者が代理回答)
- 回 答 数 : 1000サンプル
- 実施主体 : 特定非営利活動法人日本トイレ研究所

結果概要

■子どもの便秘状態(P5)

便秘状態の子どもが9.9%、便秘予備軍は10.2%であった。

■子どもの便秘状態の認識(P7)

便秘状態の子どもの保護者のうち、子どものことを便秘だと思うと回答したのは41.4%であった。「あまりそう思わない(14.1%)」と「まったくそう思わない(4.0%)」を合わせると18.1%になる。

■保護者の便秘状態(P8)

「便秘状態」が29.6%であり、「便秘予備軍」11.3%であった。性別で見ると女性の方が「便秘状態」が多かった。

■保護者の便秘状態別子どもの便秘状態(P11)

便秘状態の保護者の子どもが便秘状態である割合は26.0%であるのに対して、便秘状態ではない保護者の子どもが便秘状態である割合は3.1%であった。

■便秘状態の子ども便通対策(P12)

「ヨーグルトを与える」(49.5%)が最も多く、次いで「水分を多く与える」(43.4%)、「規則正しい生活をさせる」(41.4%)であった。

■排便の我慢(P13)

便秘状態ではない子どもは「よくある」(4.7%)に対し、便秘状態の子どもは「よくある」(38.4%)であった。

■トイレを我慢する理由(P16)

「友達に知られたくない」(26.5%)が最も多く、次いで「落ち着かない」(22.2%)、「休憩時間内に間に合わない」(22.0%)であった。

■和便器の使用可否(P17)

「抵抗はあるが使用できる」(50.9%)が最も多く、次いで「使用できない」(26.7%)、「抵抗なく使用できる」(22.4%)であった。

■トイレの個室化への意識(P19)

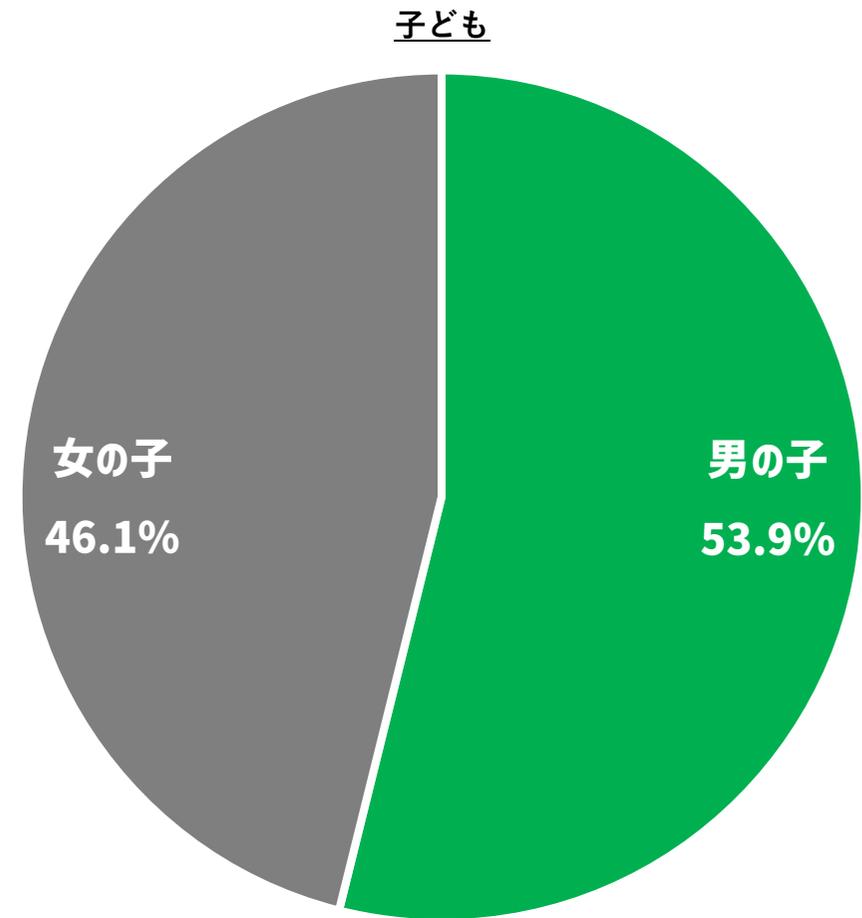
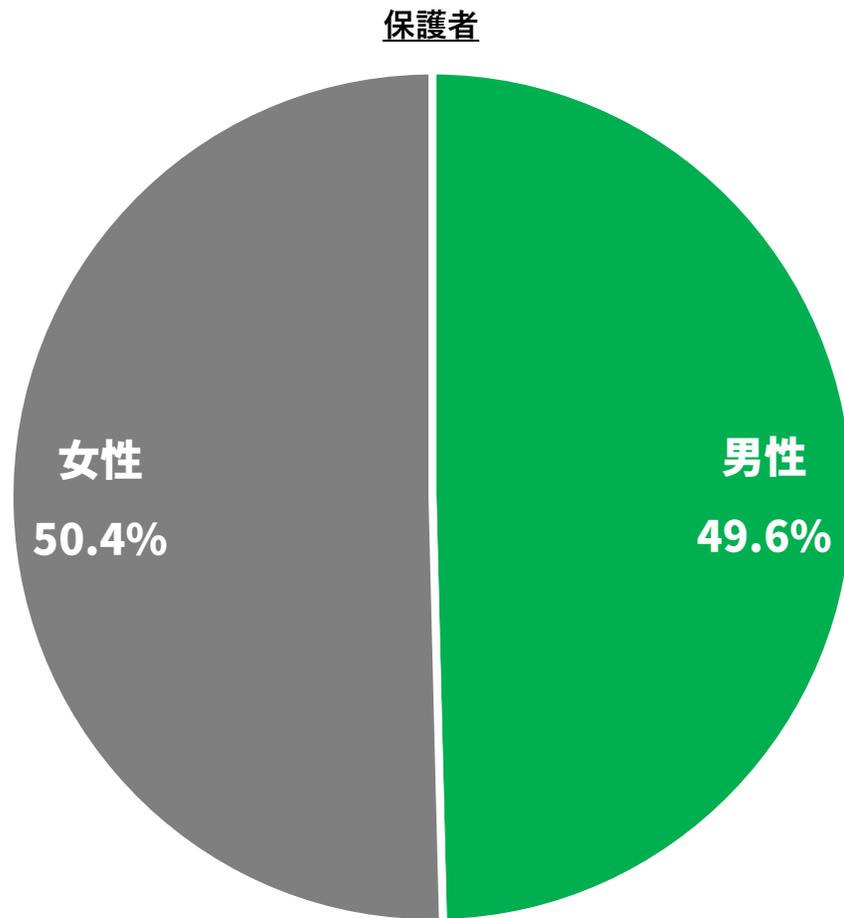
「やや嬉しい」(36.9%)が最も多く、次いで「とても嬉しい」(29.1%)、「わからない」(18.4%)であった。

■児童による学校トイレ掃除の賛否(P20)

「賛成」(59.1%)が最も多く、次いで「どちらともいえない」(29.0%)、「反対」(11.9%)であった。

回答者属性

回答者1000人のうち、「男性」が496人（49.6%）、「女性」が504人（50.4%）であった。
子どもの性別は、「男の子」が539人（53.9%）、「女の子」が461人（46.1%）であった。



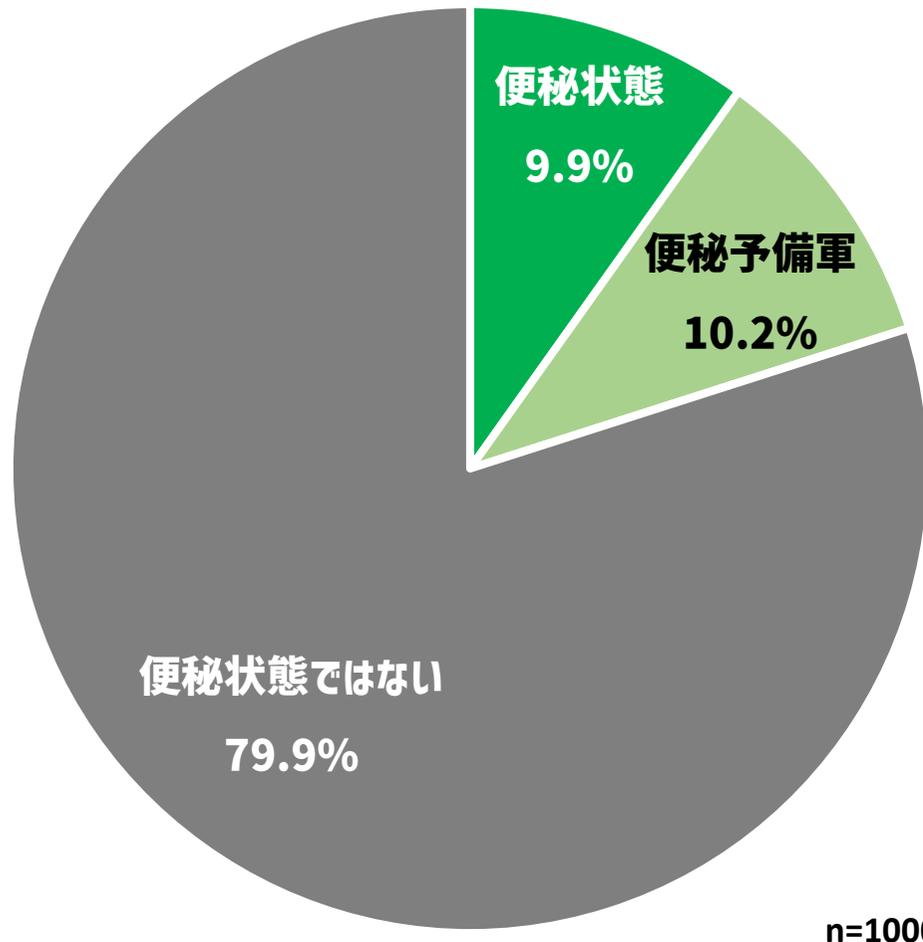
n=1000

子どもの便秘状態

※回答者：子ども

便秘状態の子どもが9.9%、便秘予備軍は10.2%であった。

お子様の排便状態について伺います。以下の項目それぞれについて、あてはまるものをお選びください(MA)



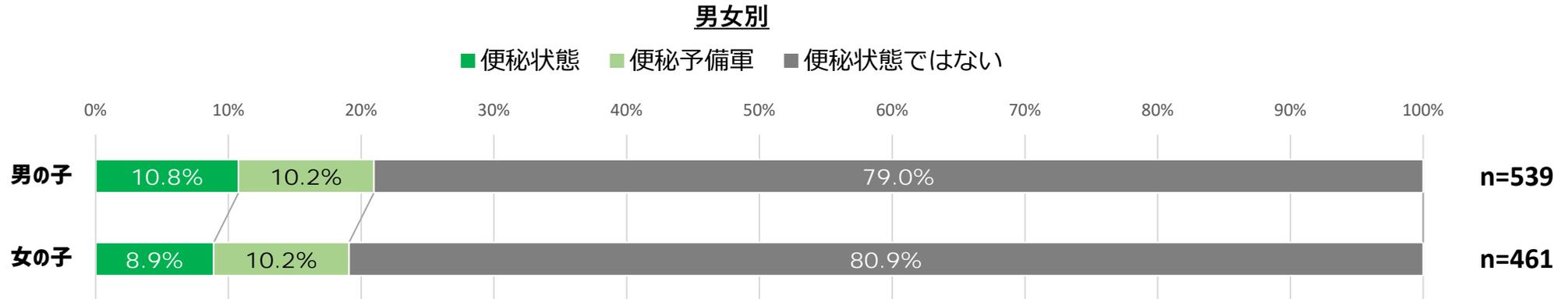
※ROMEⅢの定義に照らし合わせ、本調査では下記条件のうち2つ以上に合致する人を「便秘状態にある」と定義する。また、下記条件のうち1つ合致する人を「便秘予備軍」と定義する。

- ・うんちの回数が、週に2回以下
- ・うんちが漏れる（下着に便が付着している）
- ・うんちを我慢したり、無理にうんちをおなかにためようとする
- ・うんちが硬い、出すときにいたみがある、出血する
- ・トイレが詰まるくらい大きなかたまりのうんちが出る

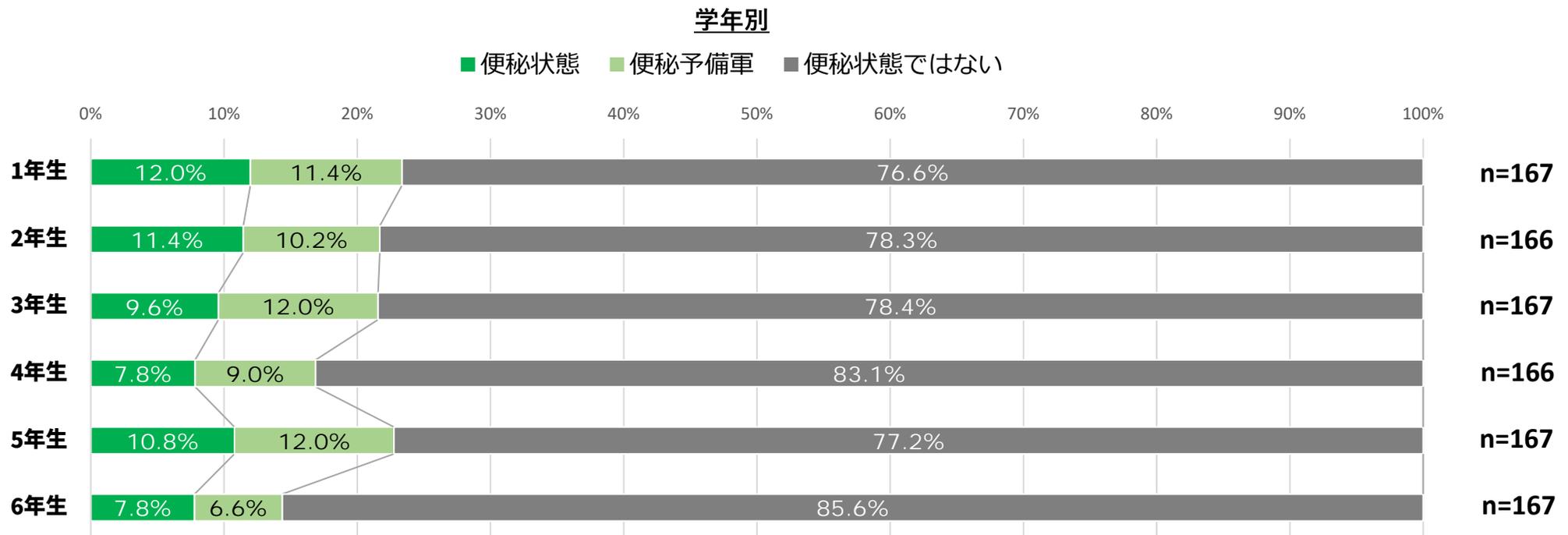
子どもの便秘状態（性別および学年別）

※回答者：子ども

便秘状態の子どもは、男の子10.8%、女の子8.9%であった。



便秘状態を学年別で見ると「1年生」（12.0%）が最も多く、次いで「2年生」（11.4%）であった。

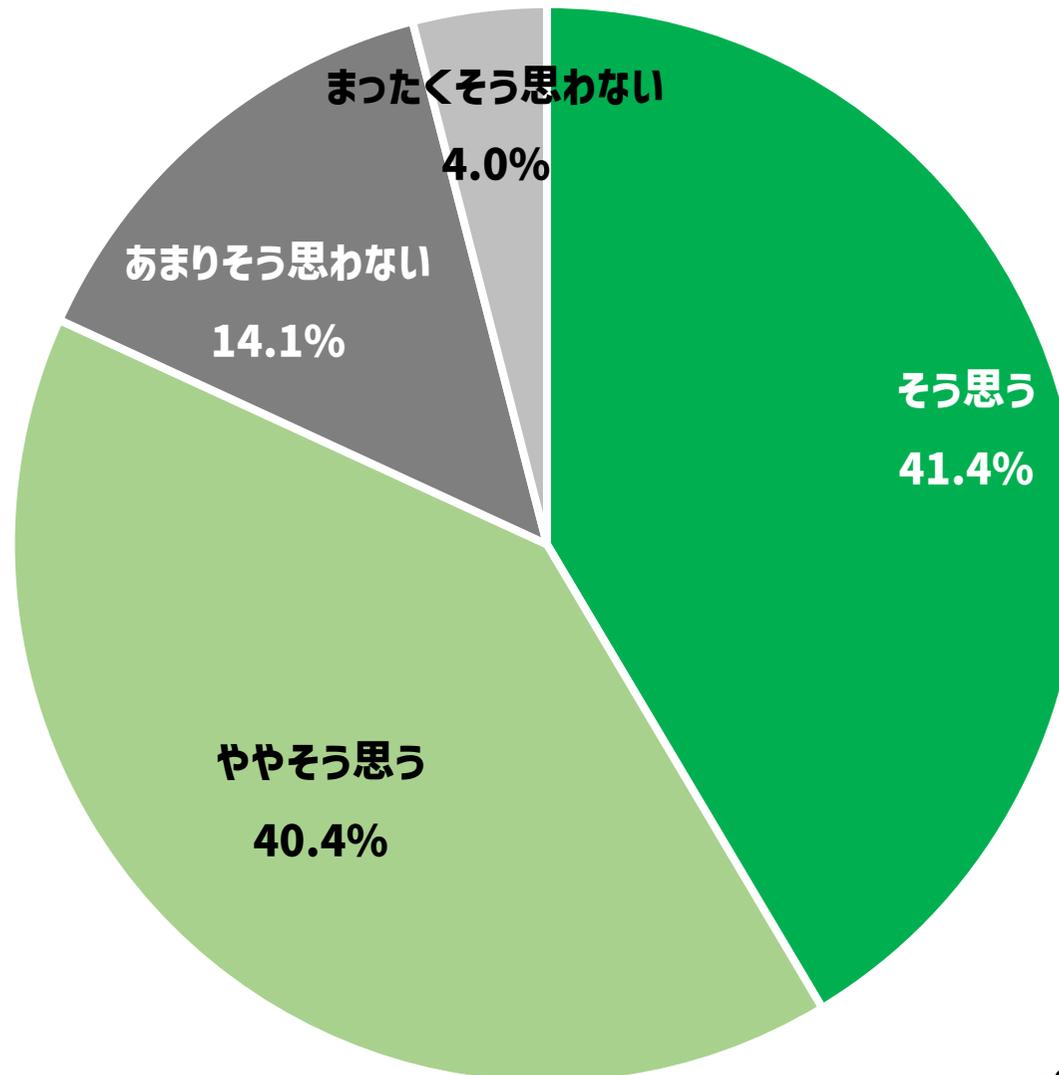


子どもの便秘状態の認識

※回答者：保護者

便秘状態の子どもの保護者のうち、子どものことを便秘だと思うと回答したのは41.4%であった。「あまりそう思わない（14.1%）」と「まったくそう思わない（4.0%）」を合わせると18.1%になる。

あなた（保護者自身）から見て、お子様は便秘だと思いますか(SA)



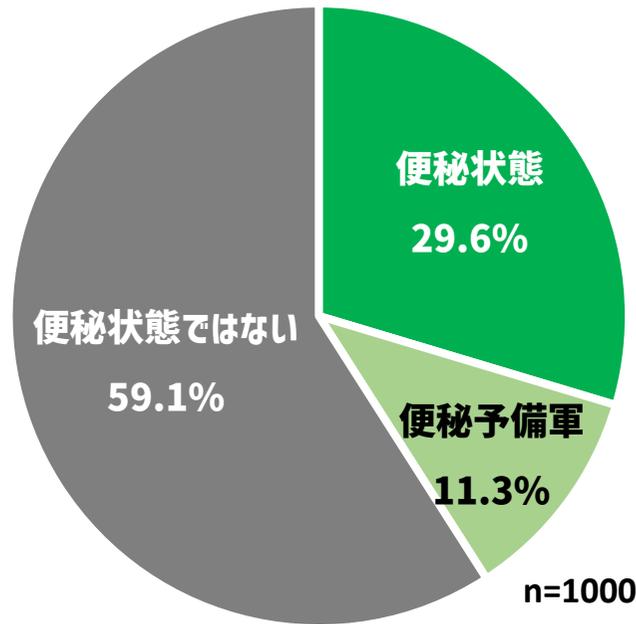
n=99

保護者の便秘状態

※回答者：保護者

便秘状態が29.6%であり、便秘予備軍11.3%であった。性別で見ると女性の方が便秘状態が多かった。

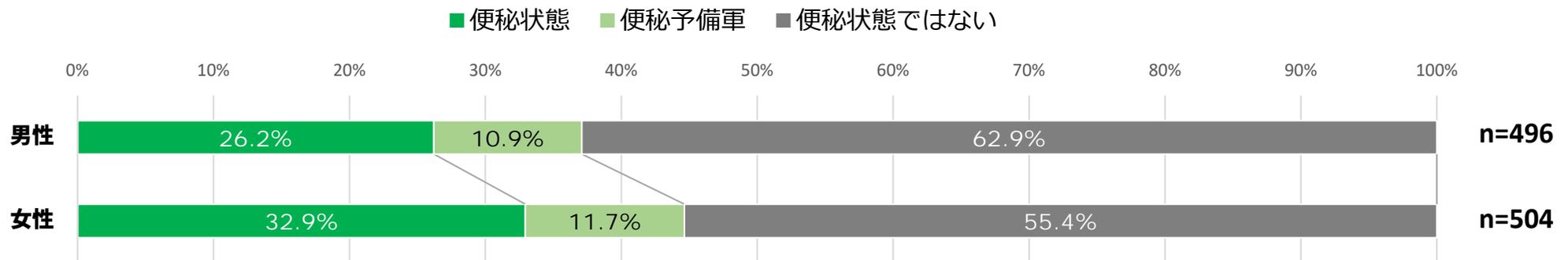
あなた（保護者自身）の排便状態について伺います。以下の項目それぞれについて、あてはまるものをお選びください。（MA）



※ROMEIVの定義に照らし合わせ、本調査では下記条件のうち2つ以上に合致する人を「便秘状態にある」と定義する。
また、下記条件のうち1つ合致する人を「便秘予備軍」と定義する。

- ・排便時に強くいきむ必要がある
- ・うさぎのようなころころした便や硬い便が出る
- ・排便しても便が残っている感じがある
- ・肛門が詰まっている感じやうまく出せない感じがある
- ・肛門の周りを押したり、手を使って便をかき出す必要がある
- ・排便の回数が、週に2回以下

男女別

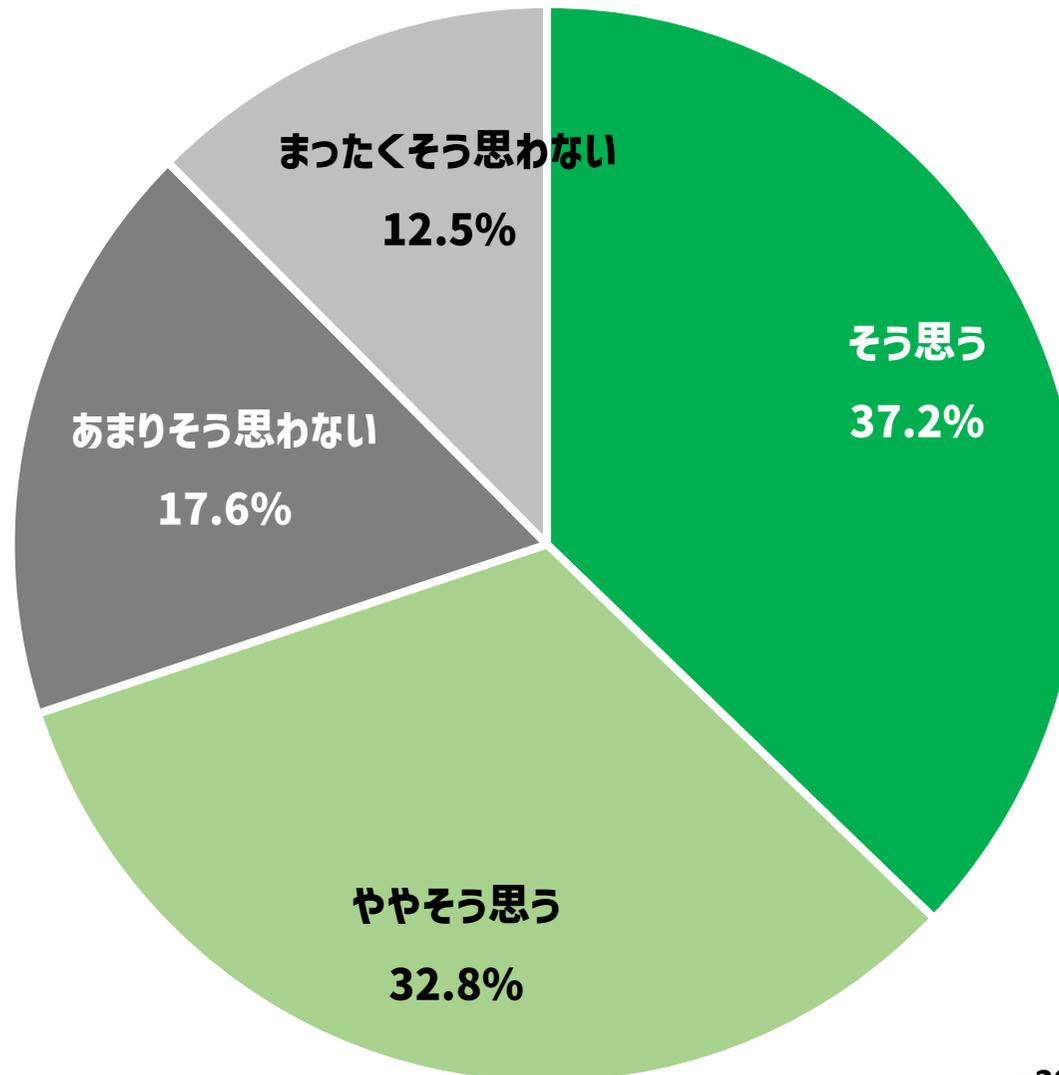


保護者の便秘状態の認識

※回答者：保護者

便秘状態である保護者のうち、「あまりそう思わない」（17.6%）、「全くそう思わない」（12.5%）と30.1%の保護者が便秘を認識していなかった。

あなた（保護者）は、ご自身を便秘だと思えますか(SA)

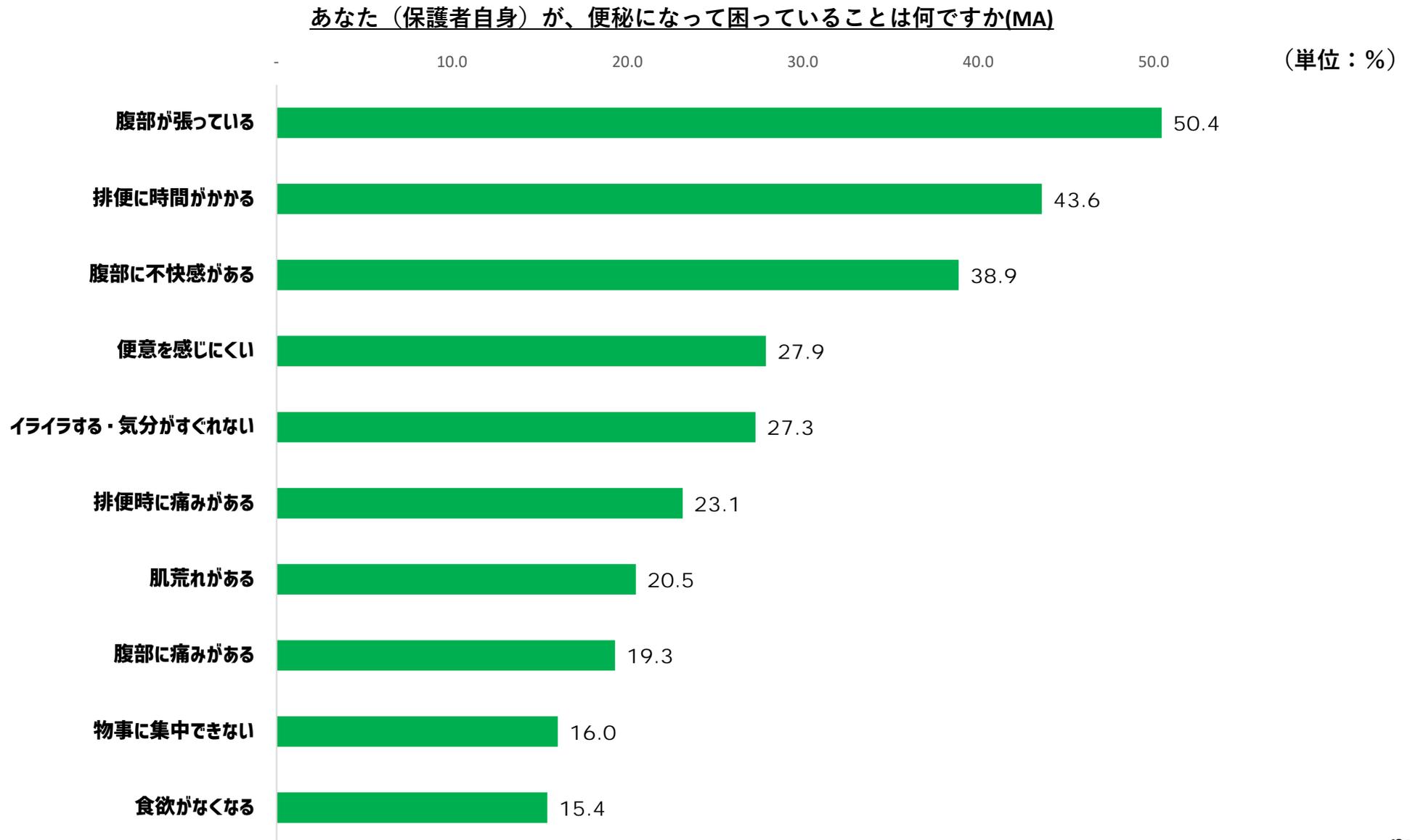


n=296

保護者の便秘の症状

※回答者：保護者

「腹部が張っている」(50.4%)が最も多く、次いで「排便に時間がかかる」(43.6%)、「腹部に不快感がある」(38.9%)であった。

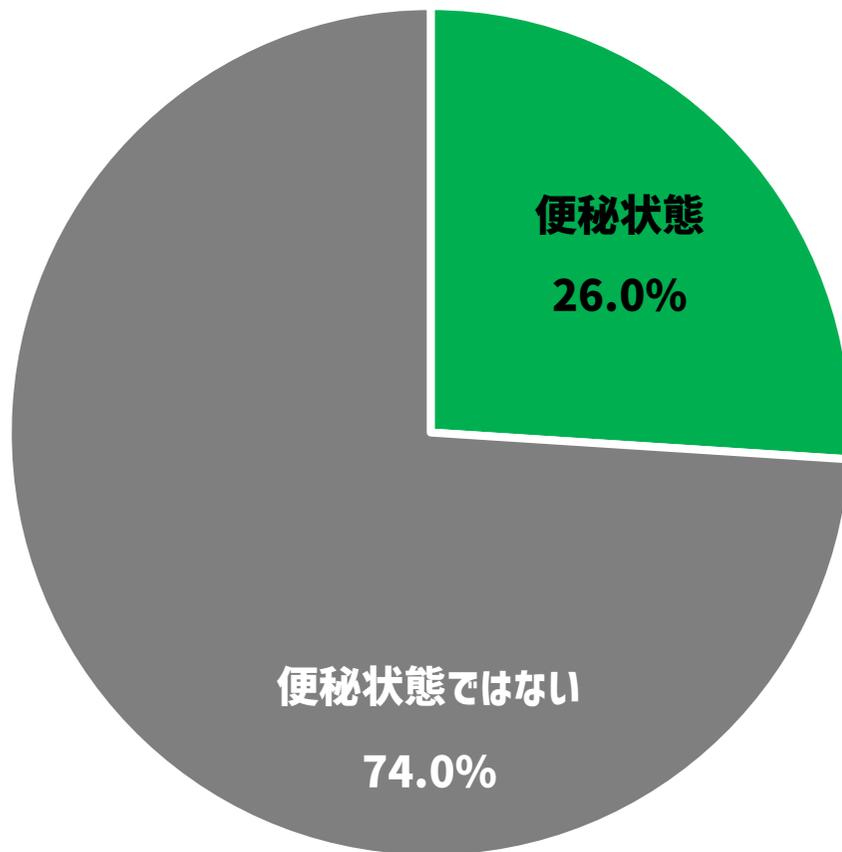


保護者の便秘状態別 子どもの便秘状態

※回答者：保護者、子ども

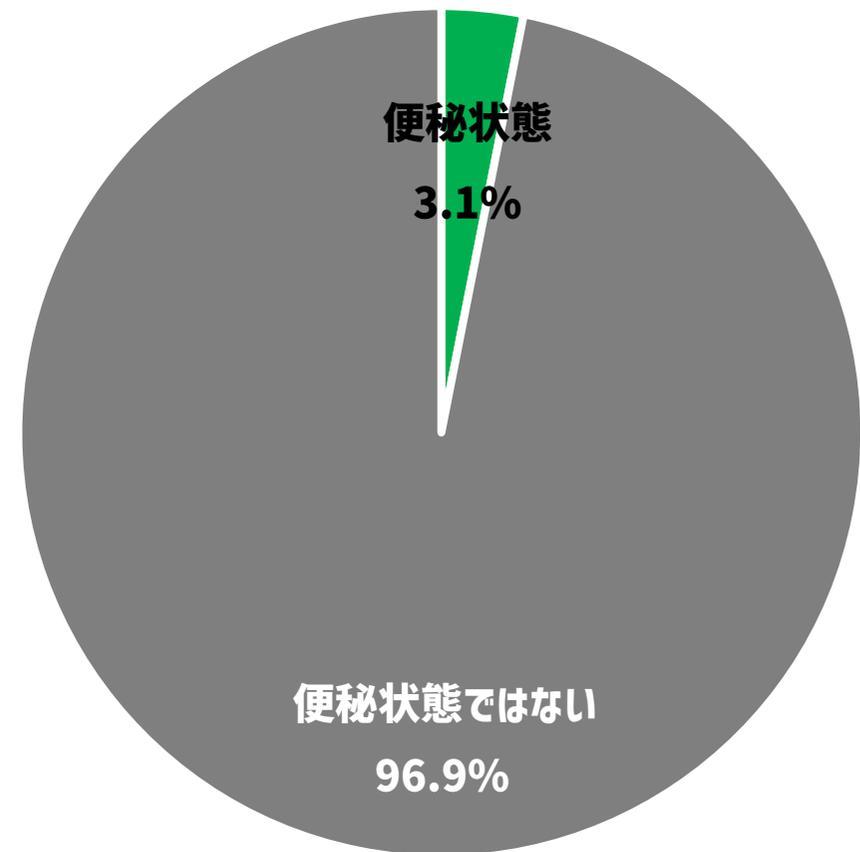
便秘状態の保護者の子どもが便秘状態である割合は26.0%であるのに対して、便秘状態ではない保護者の子どもが便秘状態である割合は3.1%であった。

保護者が便秘状態の子どもの便秘状態



n=296

保護者が便秘状態ではない子どもの便秘状態



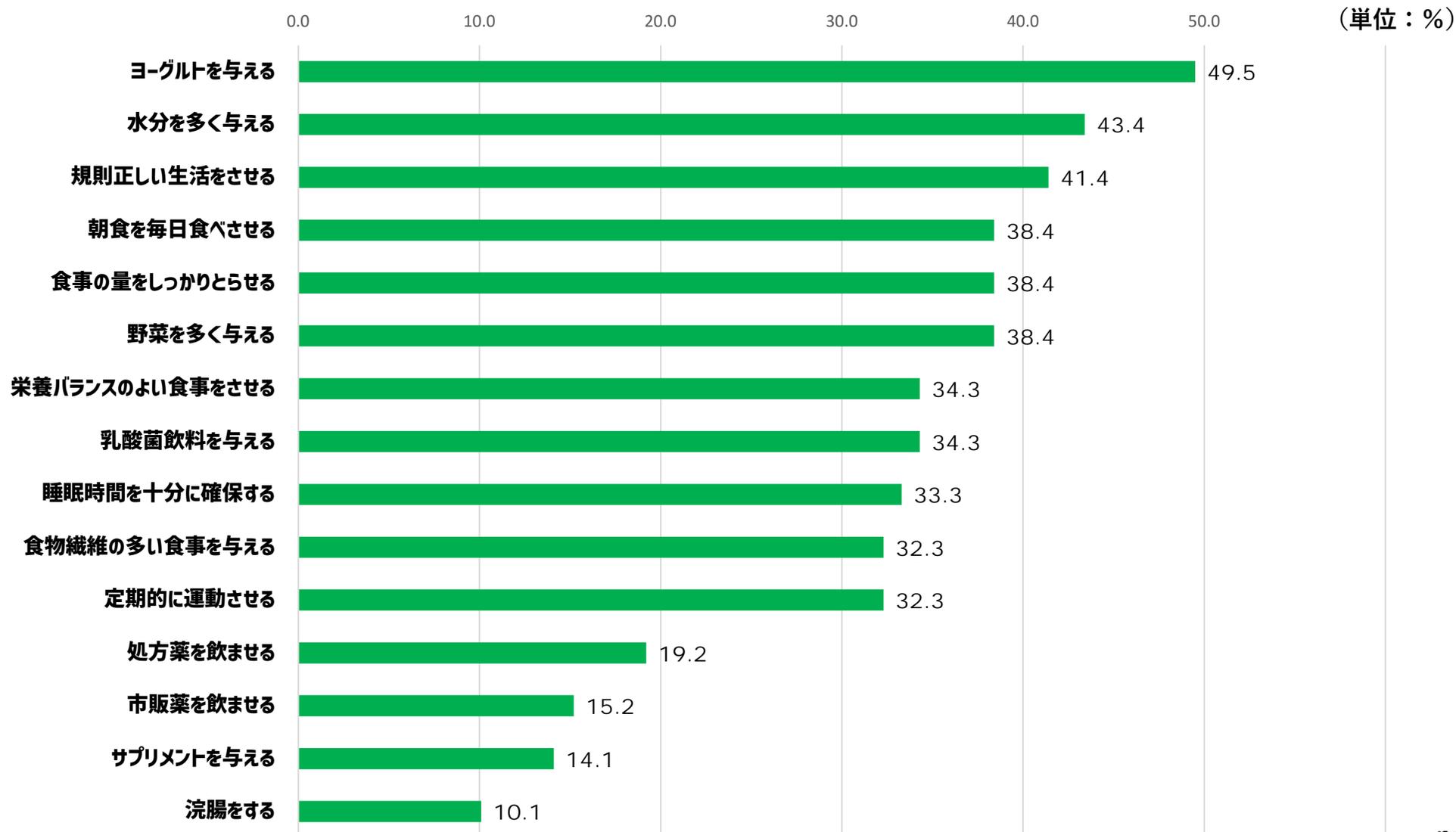
n=704

便秘状態の子どもの便通対策

※回答者：保護者

「ヨーグルトを与える」(49.5%)が最も多く、次いで「水分を多く与える」(43.4%)、「規則正しい生活をさせる」(41.4%)であった。

あなたは、お子様の便通対策として、普段どのようなことを行っていますか(MA)



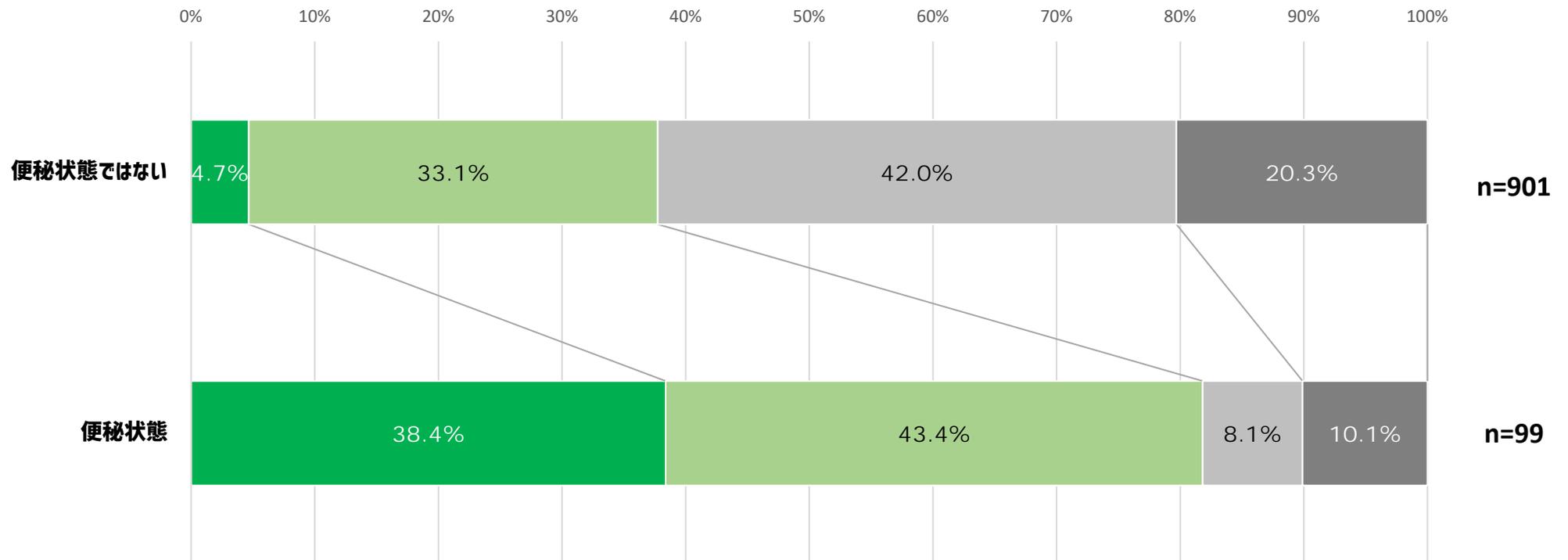
排便の我慢

※回答者：子ども

便秘状態ではない子どもは「よくある」（4.7%）に対し、便秘状態の子どもは「よくある」（38.4%）であった。

お子様は学校でうんちしたくなった時、我慢することができますか(SA)

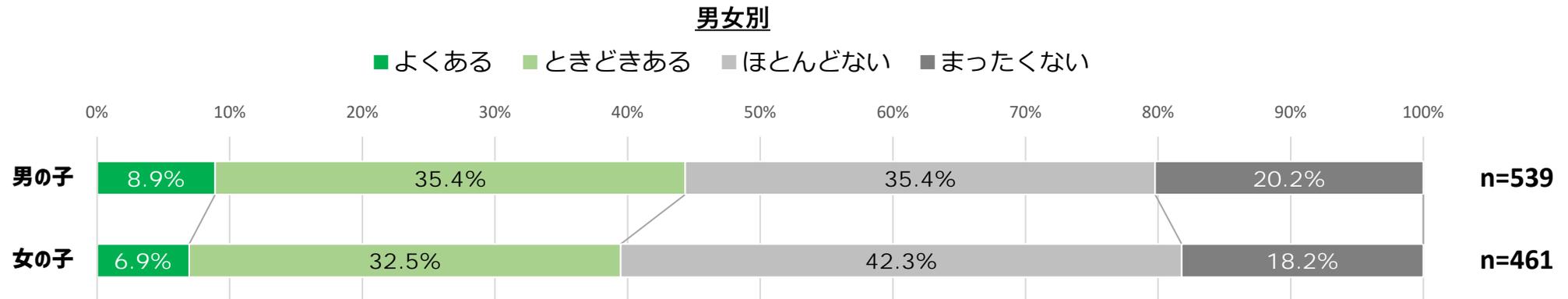
■ よくある ■ ときどきある ■ ほとんどない ■ まったくない



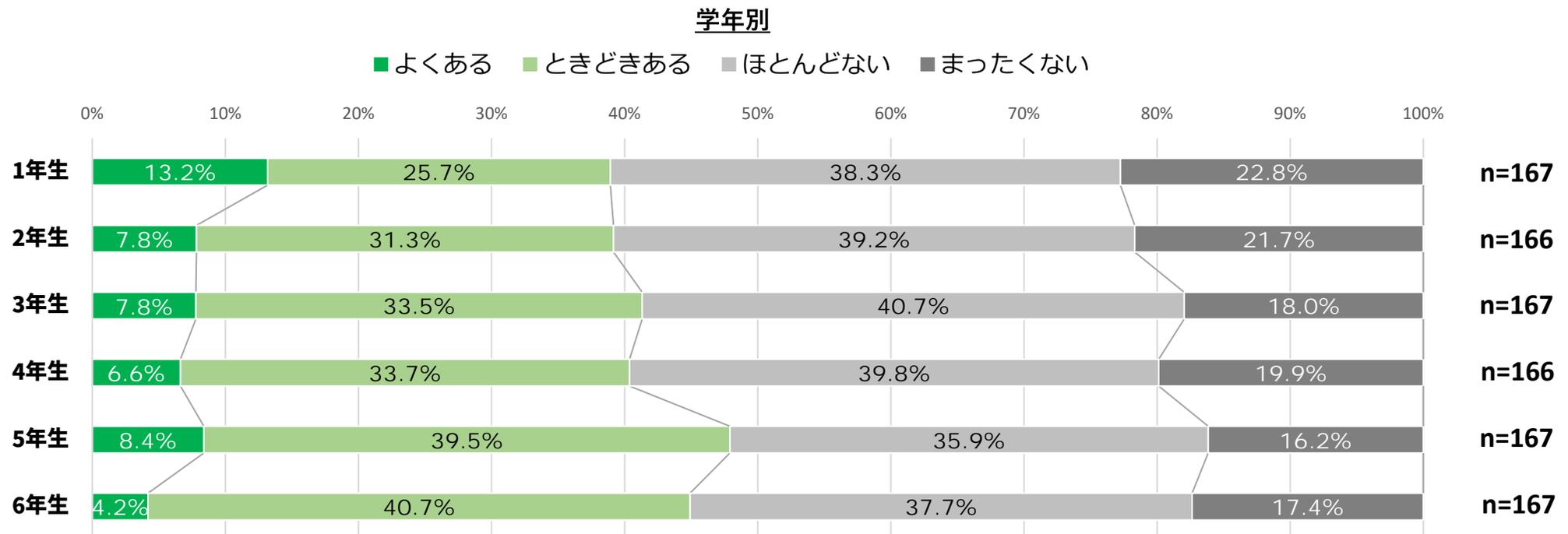
排便の我慢（性別および学年別）

※回答者：子ども

「排便の我慢の有無」を性別で見ると「男の子」が多かった。



「よくある」と回答したのは「1年生」（13.2%）が最も多く、次いで「5年生」（8.4%）であった。

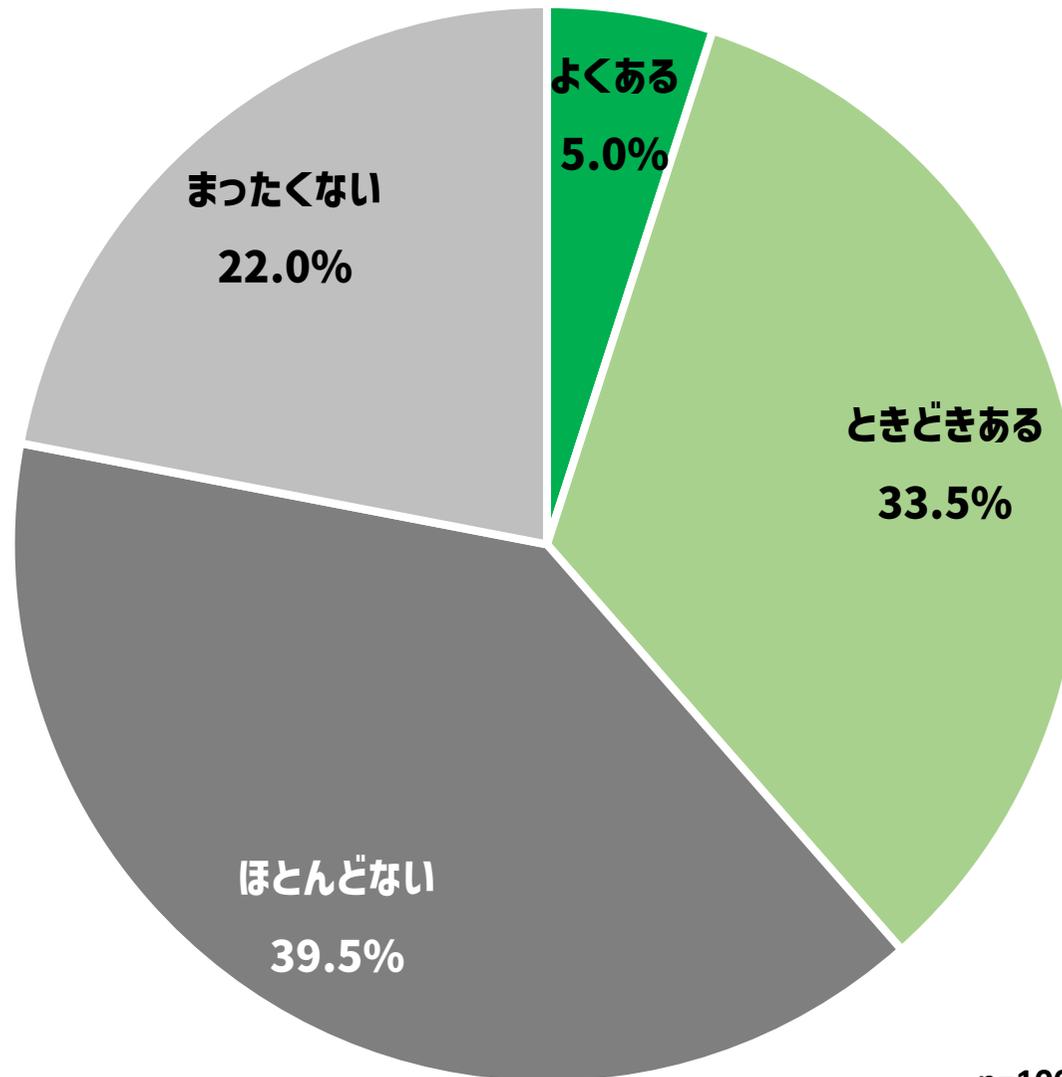


排尿の我慢

※回答者：子ども

おしっこを我慢することが「よくある」(5.0%)、「ときどきある」(33.5%)であった。

お子様は学校でおしっこをしたくなかった時、我慢することがありますか(SA)

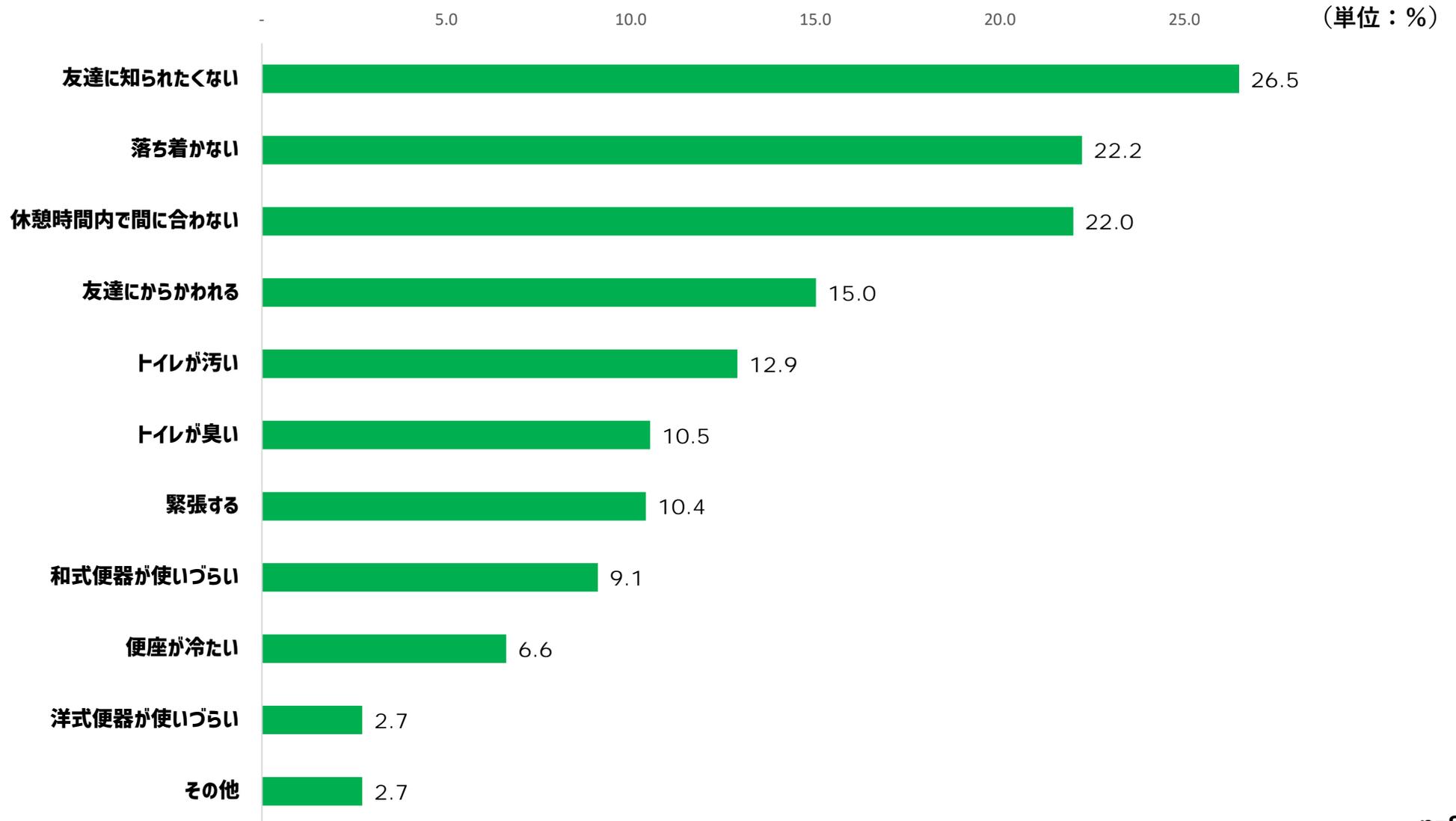


トイレを我慢する理由

※回答者：子ども

「友達に知られたくない」(26.5%)が最も多く、次いで「落ち着かない」(22.2%)、「休憩時間内に間に合わない」(22.0%)であった。

お子様が学校でトイレを我慢する理由は何ですか(MA)

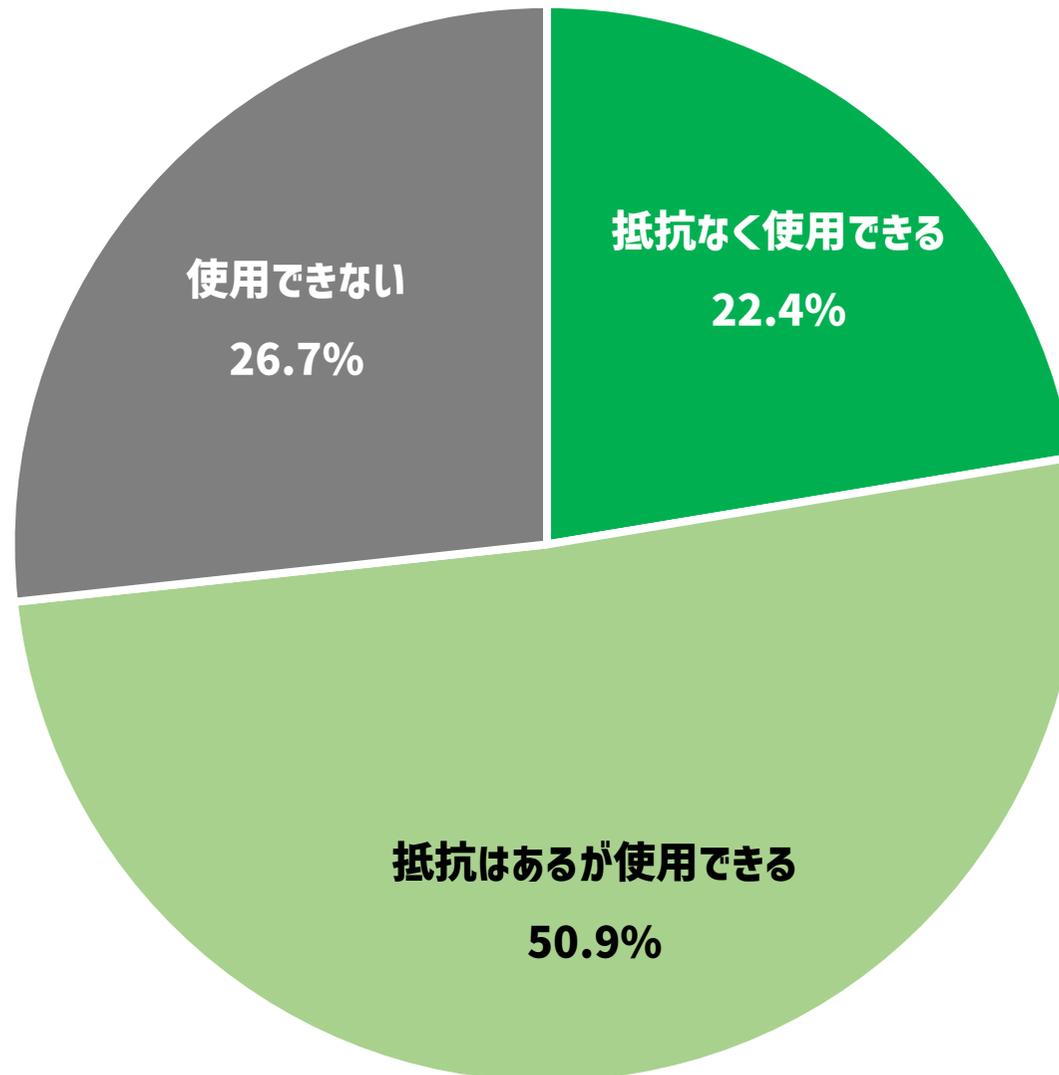


和便器の使用可否

※回答者：子ども

「抵抗はあるが使用できる」(50.9%)が最も多く、次いで「使用できない」(26.7%)、「抵抗なく使用できる」(22.4%)であった。

お子様は、和式便器を使用することができますか(SA)

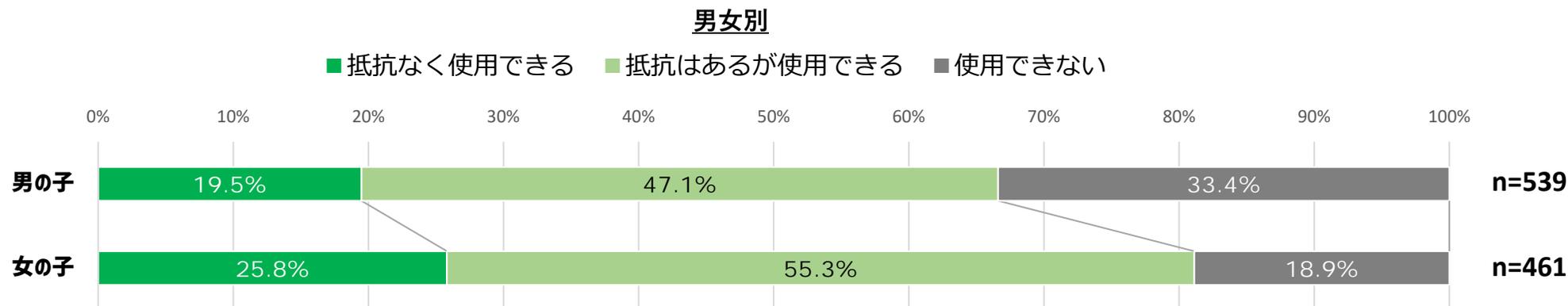


n=1000

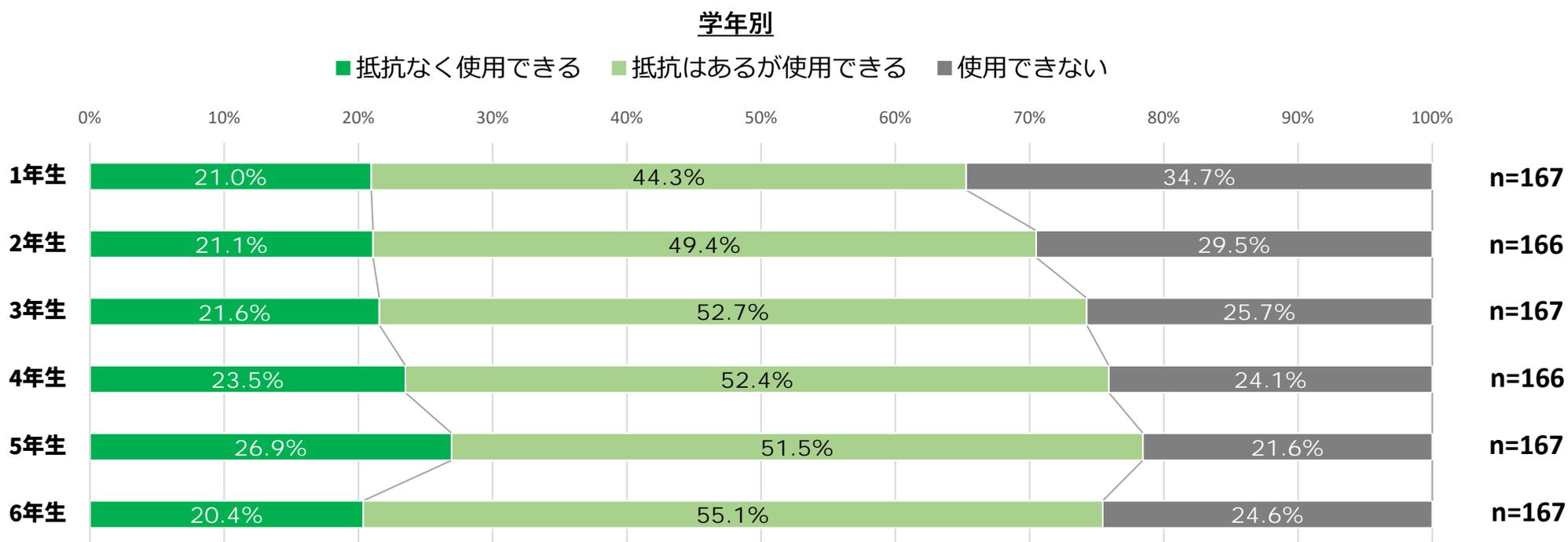
和便器の使用可否（性別および学年別）

※回答者：子ども

「使用できない」を性別で見ると「男の子」（33.4%）が多かった。



「使用できない」を学年別で見ると「1年生」が最も多く、次いで「2年生」であった。

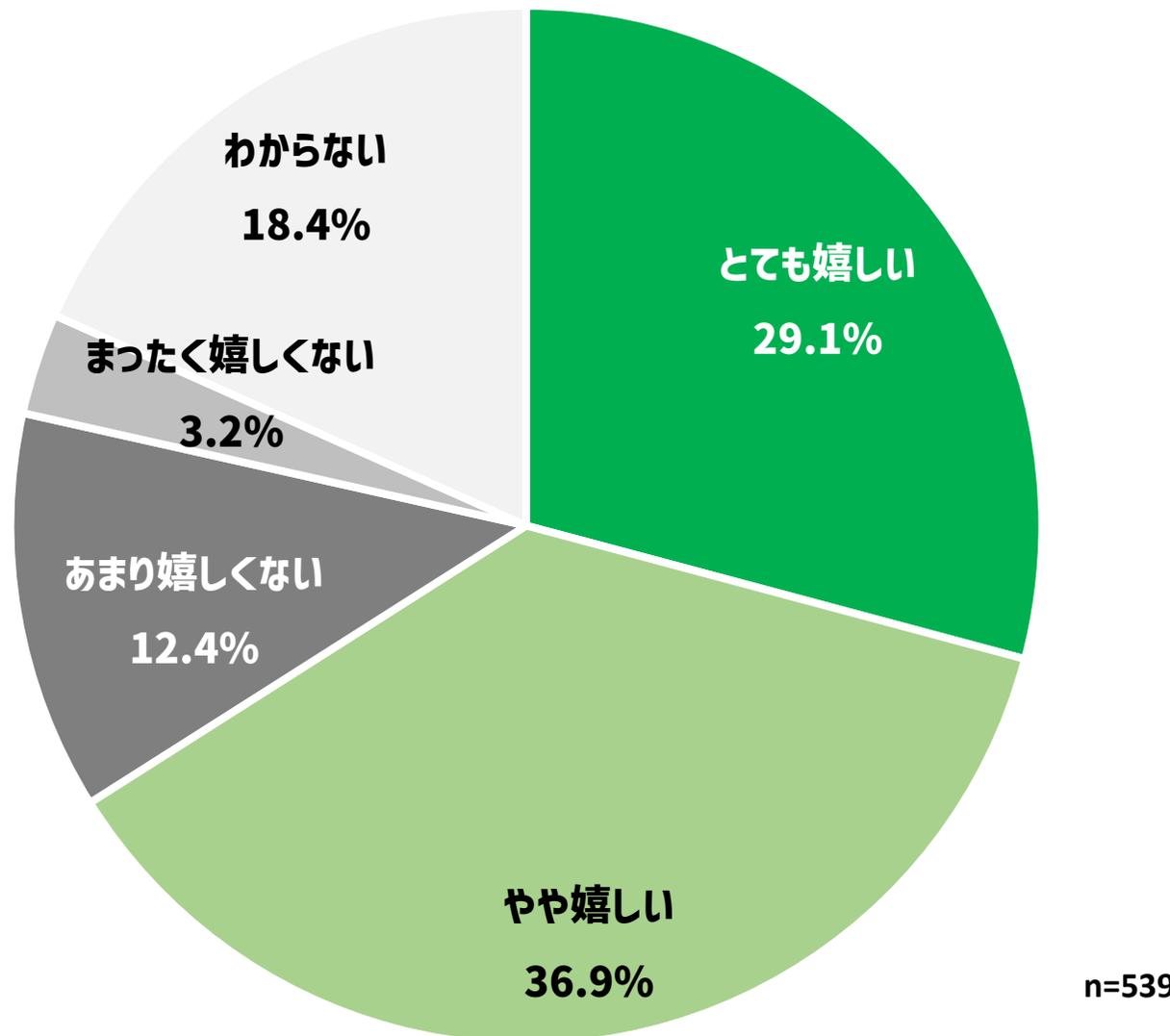


トイレの個室化への意識

※回答者：子ども

「やや嬉しい」(36.9%)が最も多く、次いで「とても嬉しい」(29.1%)、「わからない」(18.4%)であった。

お子様が男の子の方にお伺いします。お子様は、学校のトイレがすべて個室(大便器)になったら嬉しいですか(SA)

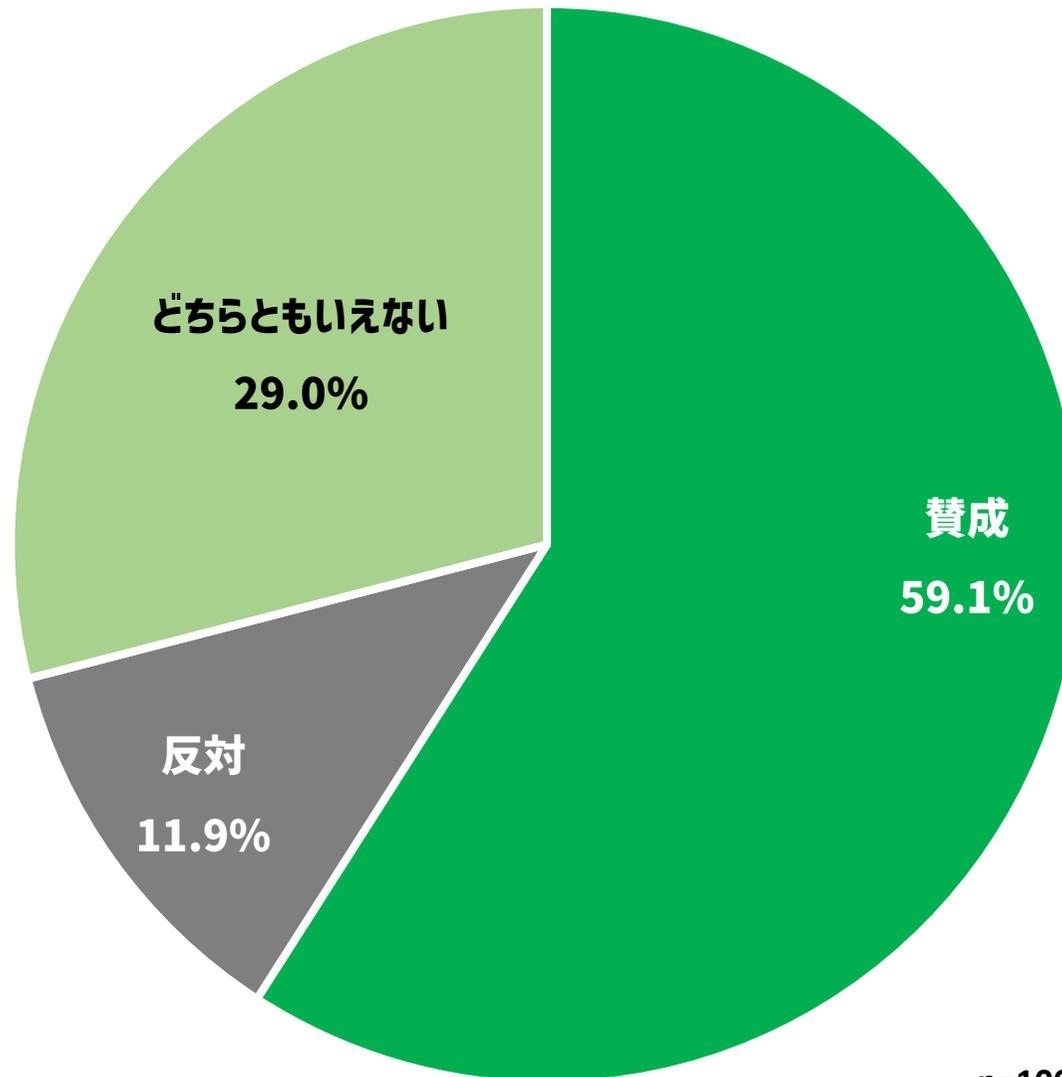


児童による学校トイレ掃除の賛否

※回答者：保護者

「賛成」(59.1%)が最も多く、次いで「どちらともいえない」(29.0%)、「反対」(11.9%)であった。

あなた(保護者自身)は、お子様に学校のトイレを掃除させることに賛成ですか、反対ですか(SA)



n=1000



toilet-magazine.jp/unchiweek

排便は、食事・睡眠・運動と同様に、生きる上で欠かすことのできない生理現象です。しかし、大人も子どもも排便について学ぶ機会はほとんどなく、日常会話でも隠される傾向にあります。また、排便回数や排便状態、排便疾患に関する基本的なデータが十分ではありません。そこで日本トイレ研究所では、排便をとおして健康や生活リズムを整えることを目的にした啓発活動「うんちweek2022」を実施しました。

■うんちweek2022 実施概要

期 間 2022年11月10日(木)～11月19日(土)

(11月10日：いいトイレの日) ～ (11月19日：国連・世界トイレの日)

内 容 特設サイト・イベントでの情報発信、排便記録の呼びかけと排便記録の集計

主 催 特定非営利活動法人日本トイレ研究所

協 賛 EAファーマ株式会社、株式会社ビー・エス・ケイ、
カルビー株式会社、小林製薬株式会社、マグミット製薬株式会社、
イチジク製薬株式会社、株式会社ケンユウ、野村乳業株式会社（順不同）

協 力 ウンログ株式会社

Labo.
日本トイレ研究所

特定非営利活動法人日本トイレ研究所 www.toilet.or.jp

「トイレ」をとおして社会をより良い方向へ変えていくことをコンセプトに活動しているNPO団体です。近年は「子どものトイレ・排泄環境」「災害時のトイレ・衛生環境」「街なかのバリアフリーなトイレ環境」に力を入れています。